進化経済学会ニューズレター

No.53 February 2023

（撮影：横田宏樹　飛び立つ飛行機と富士山 @ 富士山静岡空港）

進化経済学会事務局
〒572-8508
大阪府寝屋川市池田中町 17-8
摂南大学経済学部
原田裕治研究室宛

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

- ✓ 2022 年度オータムコンファレンスを終えて
- ✓ 第 27 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録
- ✓ 第 27 回進化経済学会オータムコンファレンス（立教大学）会計報告
- ✓ 第 7 回進化経済学会学会賞並びに第 3 回進化経済学会奨励賞選考報告
- ✓ Call for Papers "Microfoundation of evolutionary economics and its application"

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

2022年度オータムコンファレンスを終えて

第27回進化経済学会東京大会実行委員会

2022年度オータムコンファレンスは，9月17日に立教大学（池袋キャンパス）での対面会場とオンライン会場との組み合わせというハイブリッド形式で開催されました。学会としては初めてのハイブリッド開催となりましたが，参加者数は，対面とオンラインそれぞれがほぼ同数の約30名弱となり，合計60名弱の参加となりました。昨年のオータムコンファレンスの全面オンライン開催と比べると，ハイブリッド開催により若干ですが参加者数を増やすことができたかと思います。

13:00からのシンポジウムについては「開催校の特色を出す」というオータムコンファレンスの慣例に倣い，大会実行委員会としては，立教大学で今最も注目を浴びている人工知能科学研究科の先生方にご講演いただくことにしました。

最初に，内山泰伸氏（立教大学大学院人工知能科学研究科教授・研究科委員長）より「AIによる社会活動の拡張」と題してご講演いただきました。講演では，日本初となる人工知能に特化した研究科を設立した狙い，研究科のプロジェクト実習の取り組み例　（介護AIプロジェクト），最近のAI活用の拡張例，今後のメタバースの可能性を示すものとして研究科で行われているVirtual Classroom実証実験などが紹介されました。

次に，村上祐子氏（立教大学大学院人工知能科学研究科教授）より「データサイエンスと差別」と題する講演がなされました。データサイエンス技術が現実世界に浸透するにつれ，実態として情報空間を迂回した倫理審査逃れが問題となりつつある現状や，既存の研究倫理では不足する場面が多々生じつつある問題が紹介されました。データ収集，データ分析，データのシステム運用といったそれぞれの場面において，データサイエンティストが「意図せざる差別」を生じさせないような，具体的ガイドラインや実効的救済措置が求められていることが指摘されました。

最後に，三宅陽一郎氏（株式会社スクウェア・エニックス，立教大学大学院人工知能科学研究科特任教授）より「メタバースとデジタルゲームの発展」と題して，ここ数十年のデジタルゲームAIの進展，それに伴う近年のメタバー

スとスマートシティの拡大について，ご講演いただきました。ご講演では，ゲーム AI 技術やスマートシティの具体例に関する詳細な資料を数多くご提示いただき，非専門家にも視覚的に分かりやすい内容が多々紹介されました。

講演後の質疑応答においては，深層強化学習と因果推論の今後，弱い AI と強い AI についての質問をはじめとして，個人のパーソナリティに関わるデータ利用やスコア化に対する懸念，仮想空間と仮想通貨との関係，メタバースと web3.0（分散型ネットワーク）との関連，データ駆動型サイエンスの進展による我々の世界の認識の変化について，議論されました。なお，シンポジウムを録画した動画も学会ウェブサイトにて公開されていますので，そちらも是非ご覧ください。

シンポジウムに続いて，16:00 からは学会の新規企画「ライブプレゼン・フェス 2022」が Gather.Town を利用したオンライン形式で開催されました。Gather.Town は前回の年次大会のポスターセッションでも利用されましたが，今回 6 つのポスター報告がなされました。オンライン参加者は 30 名弱といったところでしたが，対面会場では企画委員が Gather.Town へ参加する実演をスクリーンに映し出しました。また，対面会場に参加した会員の方々が持参のノート PC で Gather.Town へ参加する様子も見られました。

さて，第 27 回年次大会は，2023 年 3 月 18 日～19 日に，今回のオータムコンファレンスと同様，対面とオンラインのハイブリッド形式での開催を予定しています。対面・オンラインいずれの形式でも，多くの会員の皆様方のご参加を大会実行委員一同お待ち申し上げます。

第 27 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録

日時：2022 年 9 月 17 日（土）11:30~12:20
場所：立教大学 11 号館 A101 ＋　オンライン
出席者（対面・オンライン）： 磯谷明徳（会長），吉田雅明（副会長），池田毅（大会実行委員長），荒川章義，有賀裕二，依田高典，植村博恭，江頭進，岡敏弘，小川一仁，黒瀬一弘（監査），厳成男，瀬尾崇，遠山弘徳，中原隆幸，鍋島直樹，西洋（会計），西部忠，橋本敬，廣瀬弘毅，藤本隆宏，宮﨑義久，八木紀一郎，吉井哲，原田裕治（事務局）
欠席（委任状あり）： 宇仁宏幸，徳丸宜穂，服部茂幸，藤田菜々子（監査）
欠席： 佐々木啓明，澤邉紀生，塩沢由典，瀧澤弘和　　（敬称略）

１．報告
１．１　会勢報告　　資料 1
原田事務局担当理事より会勢報告が行われた。
１．２　第２７回オータムコンファレンス参加状況について　　資料 2
池田大会実行委員長より、第 27 回オータムコンファレンス参加状況について、報告があった。
１．３　日本経済学会連合報告　　資料 3,4
池田担当理事より、2022 年度第 1 回評議会報告があった。
また磯谷会長より、同連合が発行する『英文年報』第 42 号に本学会の活動紹介（磯谷会長執筆）が掲載されるに伴い、原稿確認と意見募集の依頼があった。
１．　４　各部会報告
ニュースレター掲載に付き省略。
１．５　各委員会報告　　資料 5
・瀬尾学会活性化委員会委員長より、オータムコンファレンスで行われる LPF（ライブプレゼン・フェス）の最終案内と運営への協力依頼が行われた。
・宮﨑 JAFEE 通貨運営委員会委員長より、JAFEE 通貨の現状と今後の取組みについて報告があった。
１．　６　次年度開催校について
原田事務局担当理事より次年度開催校が福井県立大学になる旨報告があり、廣瀬理事から挨拶があった。

２．議題

２．１　入退会について　資料 1

原田事務局担当理事より、メール審議によって承認された新規入会者が提示され，これを確認した。また退会者のリストを確認し、これを了承した。

２．２　2021 年度会計決算報告について　資料 6

西会計担当理事より 2021 年度の会計決算報告が，黒瀬理事より監査報告が行われ、2021 年度会計決算を了承した。

２．３　学会賞・奨励賞の選定について　資料 7

西選考委員会委員長の報告書により、今年度の学会賞を黒瀬一弘氏の論文 "A two-class economy from the multi-sectoral perspective: the controversy between Pasinetti and Meade–Hahn–Samuelson–Modigliani revisited." *Evolutionary and Institutional Economics Review*, 2022,19(1), 239-270.に基づいて授与することが提案され、これを了承した。

また今年度の奨励賞については、該当者なしとすることが提案され、これを了承した。

２．４　年次大会の「大会参加費」について　資料 8

原田事務局担当理事より、ハイブリッド形式で開催される場合の年次大会参加費は、参加形態の別（対面参加，オンライン参加）にかかわらず学会会則で定められた金額(個人正会員：2,000 円，学生会員：1,000 円)とすることが提案され、これを了承した。

２．５　会則・規定の改正，内規の制定について　資料 9

原田事務局担当理事より、会員情報システム（マイページ）の導入により入会申込みの方法が変わったことに伴い、会則第５条を改正することが提案され、これを了承した。またこの議決にもとづき、東京大会総会で会則改正を提案することが確認された。

また年度途中での入会希望者への対応を迅速にすべく、入会希望者取扱い内規を定めることが提案され、これを了承した。

さらに進化経済学会フェロー規定を実態に合わせて改正することが提案され、これを了承した。

２．６　フェロー推薦について

荒川理事・フェロー選考委員会委員より、谷口和久会員をフェローに推挙する旨報告があり、審議の結果これを了承した。

３．その他

なし

文責：事務局担当理事　原田裕治

第 27 回進化経済学会オータムコンファレンス（立教大学）会計報告

2022 年 9 月 17 日会計担当理事

西　洋（阪南大学）

1 2021 年度収支計算書決算報告

※ 資料は,「進化経済学会 2021 年度 収支計算書」（資料 1）

1-1 収入（会費および大会収入）

①正会員当該年度会費から賛助会員会費まで全てを含めた会費収入の推移（5 年）

2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
3,462,000 円	3,552,000 円	3,425,000 円	3,494,000 円	3,467,000 円

（根拠資料）2019~2020 年度：昨年度オータムコンファレンス会計報告，2021 年度：2021 年度収支計算書決算報告（決算額）の数字

（注）

・　2022 年度に会員管理システムを刷新：21 年 7 月末時点で，22 年度分の会費納入は計 152 万円。対・昨年度の正会員比率でみると 56%程度。さらなる会費納入の呼びかけが必要。

②会費収入会員種別件数

年度	正会員 当年度分	学生会員 当年度分	正会員 過年度分	学生会員 過年度分	終身会員	その他	合計
2020 年度	287 件	24 件	33 件	16 件	1 件	8 件	370 件
2021 年度	271 件	22 件	41 件	7 件	1 件	2 件	344 件

（根拠資料）2020 年度：昨年度オータムコンファレンス会計報告，2021 年度：2021 入金一覧表(年度・種別）4.1.-3.31 の会費合計（国際文献社）

（注）

・　その他：前受会費，個人準会員，賛助会員，預り金

③第 26 回同志社大会（全てオンライン）収入

- 80,001 円（内訳：同志社大学からオータムコンファレンスへの補助 25,000 円，同志社大学から本大会への補助 55,000 円，本大会 1 円：進化経済学会からの補助 40 万円と同志社大学からの補助 25,000 円に対する受取利息）

（参考）

- 第 24 回仙台大会（オータムカンファレンス対面@飛騨／本大会オンライン）の収入：17 万 9,504 円（内訳：オータムコンファレンス 4 万 5,500 円，本大会 13 万 4,004 円）
- 第 23 回名古屋大会（全て対面）の収入：74 万 4,001 円（内訳：オータム 12 万 2,000 円，本大会 62 万 2,001 円）

1-2 同志社大会（第 26 回大会）収支

	収入（金額）		支出（金額）		差額
オータムカンファレンス	進化経済学会補助 同志社大学･学会補助費	400,000 25,000	支出	57,585	367,415
本大会	同志社大学・学会補助費 受取利息	55,000 1	支出	134,248	-79,247
合計		480,001		191,833	288,168

（根拠資料）2022_0428_21 年度同志社大学会計報告：差額合計（288,168 円は 2022 年 4 月 22 日に学会口座に返金済）

1-3 支出（項目と繰越金）

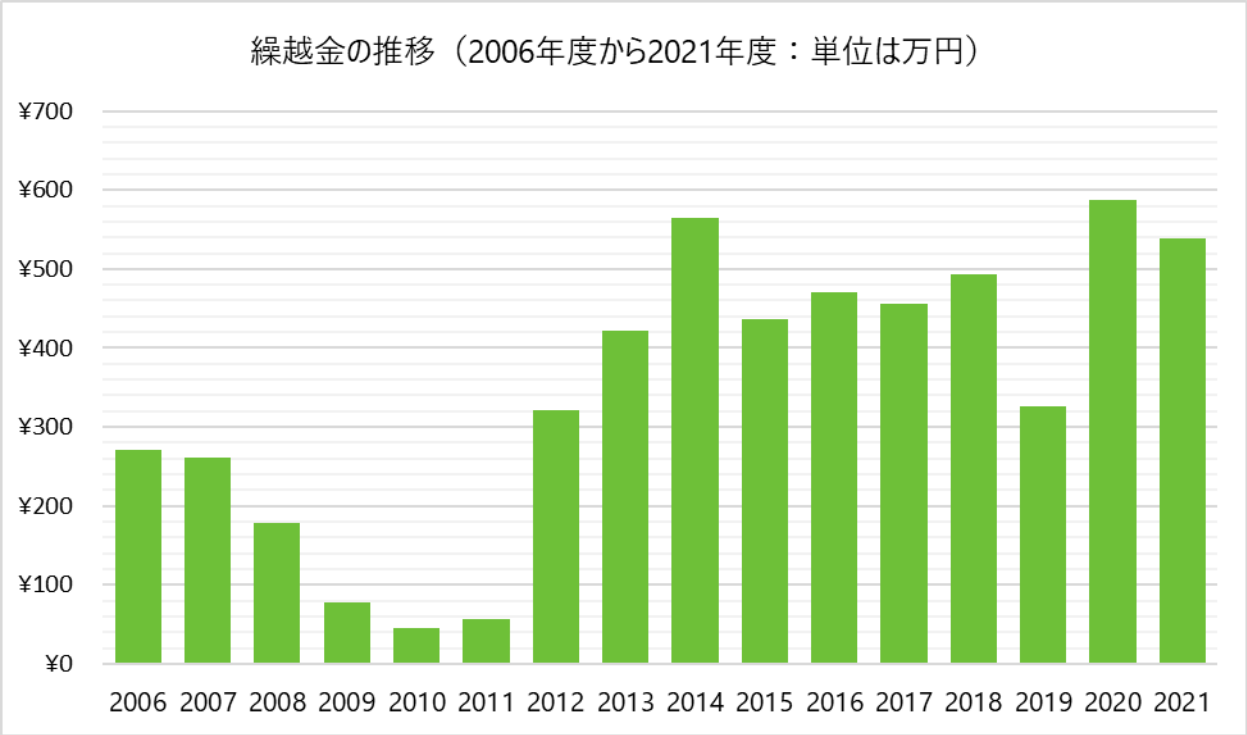
支出	参考：予算（2022年度）	決算額（2021年度）	決算額（2020年度）	決算額（2019年度）
大会費	1,100,000	191,833	153,480	305,289
オータム・コンファレンス	400,000	57,585	38,610	179,917
本大会	700,000	134,248	114,870	125,372
英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	0	4,380,000
通信費	20,000	5,568	1,560	1,530
交通費	0	0	0	0
事務用品費	80,000	38,564	33,696	9,428
謝金	20,000	22,000	5,568	16,266
送金手数料	20,000	10,735	6,448	10,286
会議費	0	0	0	0
印刷費	0	0	0	0
事務委託費	450,000	608,956	592,928	582,346
国際交流費	0	0	0	0
部会補助費	150,000	0	0	34,730
経済学会連合会費	35,000	35,000	35,000	35,000
学会賞	100,000	100,000	150,000	0
振替票送付代	0	14,520	15,950	0
予備費	100,000	804,600	84,137	0
当期支出合計(a)	4,275,000	4,031,776	1,078,767	5,374,875
繰越金(b)	3,600,973	5,394,446	5,879,212	3,258,862
総計(c=a+b)	7,875,973	9,426,222	6,957,979	8,633,737

（根拠資料）2019~2021 年度：当該年度オータムコンファレンス会計報告および 2021 年度理事会会計報告資料，2022 年度の予算（参考）は 2021 年度本大会理事会・総会にて承認済

（注）

- 感染症でここ 2 年ほどはオンライン化になり，とくに大会支出がともに落ち込んだために，20 年度と 21 年度には繰越金(b)の意図しない増大が発生した。
- 21 年度はウェブや会員管理システムの入れ替えにより，本大会費を予備費に当てた。
- 支出の大半は大会費，英文誌編集刊行，事務委託費（平常運転で 400 万円弱）であり，会費収入が 350 万円弱（当該年度会費では 280 万弱）なので，平常運転で大会収入の 50 万円以上なければ赤字運営となる。
- また英文編集刊行費用は年度始め（5 月）に巨額で執行されるため，速やかな会費納入が必要である。

2 繰越金の推移（過去 15 年分）



（根拠資料）昨年度オータムコンファレンス会計報告，進化経済学会 2021 年度収支報告書（監査）。

（注）

・ 2020 年度の繰越金は 5,879,212 円であり過去最高を記録（前年の EIER 刊行費用を前払い／大会のオンライン化による支出削減）。

3 モノグラフ・シリーズの印税収入

・ 2021 年度の『ハンドブック』利用料収入（1 件予定）は 2022 年の 12 月に，『シュプリンガー・モノグラフ S』の印税収入は 2022 年 4 月以降の収入としてそれぞれ予定しています。したがって，現在のところ 21 年度の印税収入に関する報告はありません。

資料1

進化経済学会

2021年度　収支計算書
(2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:円)

収入		予算	決算額	増減	支出	予算	決算額	増減
会費		2,919,000	3,467,000	548,000	大会費	400,000	191,833	-208,167
	正会員当該年度	2,750,000	2,710,000	-40,000	オータム・コンファレンス	400,000	57,585	-342,415
	正会員過年度分		450,000	450,000	本大会	0	134,248	134,248
	終身正会員当該年度	50,000	50,000	0	英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	0
	院生会員当該年度	115,000	110,000	-5,000	通信費	20,000	5,568	-14,432
	院生会員過年度分		35,000	35,000	交通費	0	0	0
	準会員	4,000	2,000	-2,000	事務用品費	80,000	38,564	-41,436
	賛助会員当該年度	0	0	0	謝金	20,000	22,000	2,000
	その他(前受会費)		110,000	110,000	送金手数料	20,000	10,735	-9,265
大会収入		200,000	80,001	-119,999	会議費	0	0	0
	オータム・コンファレンス	50,000	25,000	-25,000	印刷費	0	0	0
	本大会	150,000	55,000	-95,000	事務委託費	650,000	608,956	-41,044
	CD販売・受取利子	0	1	1	国際交流費	0	0	0
利息		0	8	8	部会補助費	150,000	0	-150,000
寄付金		0	1	1	経済学会連合会費	35,000	35,000	0
書籍売却代		0	0	0	学会賞	100,000	100,000	0
定期購読料		0	0	0	振替票送付代	0	14,520	14,520
利用料	『進化経済学ハンドブック』	6,000	0	-6,000			0	
印税収入	シュプリンガー・モノグラフ S	28,000	0	-28,000	予備費	850,000	804,600	-45,400
当期収入合計		3,153,000	3,547,010	394,010	当期支出合計	4,525,000	4,031,776	-493,224
前期繰越金		5,879,212	5,879,212	0	繰越金	4,507,212	5,394,446	887,234
総計		9,032,212	9,426,222	394,010	総計	9,032,212	9,426,222	394,010

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2022年 8月 3日　黒澤 一清 [redacted]

進化経済学会監査委員

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2022年 8月 6日　藤田 菜々子 [redacted]

進化経済学会監査委員

貸借対照表
(2022年3月31日現在)

(単位:円)

借方		貸方	
I.流動資産		II.流動負債	
現金		前受会費	10,000
預金			
普通預金	836,755		
郵便振替	4,279,523		
未収金	288,168	III.正味財産	
		次期繰越金	
		前期繰越金	5,879,212
		当期差益	-484,766
合計	5,404,446	合計	5,404,446

財産目録
(2022年3月31日現在)

(資産の部)　(単位:円)

科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事	りそな銀行(天満出張所	836,755
	学会事務局(国際文献)	郵便振替口座	4,279,523
未収金	第26回大会残金		288,168
資産合計			5,404,446

(負債および正味財産の部)　(単位:円)

科目	適用	金額	
流動負債			10,000
前受会費		10,000	
負債合計			10,000
正味財産合計			
		前期繰越金	5,879,212
		当期収支差額	-484,766
負債及び正味財産合計			5,404,446

第 7 回進化経済学会学会賞 並びに 第 3 回進化経済学会奨励賞 選考報告

2022 年 9 月 17 日

進化経済学会 理事会 殿

進化経済学会 学会賞・奨励賞選考委員会

稲水伸行，小川一仁，鍋島直樹，西洋 (委員長)

本委員会が学会賞・奨励賞選考にあたって審査の対象にしたのは，*Evolutionary and Institutional Economics Review* に掲載された 27 点の論文である。

本委員会は，委員による評価と委員会外部の専門的評価を踏まえて，上記対象作品を合議し，本年度の学会賞を黒瀬一弘会員の論文Kurose, Kazuhiro, "A two-class economy from the multi-sectoral perspective: the controversy between Pasinetti and Meade–Hahn–Samuelson–Modigliani revisited." *Evolutionary and Institutional Economics Review*, 2022,19(1), 239-270.に基づいて与えることが適当であるという結論に達した。

なお, 27 点の論文のうち奨励賞の対象作は 6 点あったが, 受賞に値する理由がなかった。したがって, 今年度の進化経済学会奨励賞は「該当者なし」が適当であるという結論に達した。

2022 年度 進化経済学 学会賞 授賞理由

進化経済学会 会長　磯谷明徳 殿

2022 年 9 月 17 日

進化経済学会 学会賞・奨励賞選考委員会

本年度の進化経済学学会賞の審査が終了し，審査結果が出ましたのでご報告申し上げます。

授賞作品タイトル："A two-class economy from the multi-sectoral perspective: the controversy between Pasinetti and Meade–Hahn–Samuelson–Modigliani revisited." *Evolutionary and Institutional Economics Review*, 2022,19(1), 239-270.

著者名: Kazuhiro Kurose（黒瀬 一弘）

授賞理由

黒瀬一弘会員の論文は，異質な資本と商品がある多部門モデルと，労働者と資本家の最適化とを統合することで，かつてケンブリッジ資本論争において，その妥当性をめぐって検討されたパシネッティ均衡，双対均衡，あるいは反双対均衡の存在を再検討することを試みたものである。

これらの均衡が成立する条件は，先行研究でも検討されてきたが，本論文の独創性あるいは新奇性として，次の 4 点が挙げられる。第 1 に，多部門モデルにおいて，無限視野，世代重複のそれぞれで生きる労働者と資本家の最適化行動をミクロ的基礎として導入しても，パシネッティ均衡と双対均衡が存在しうることを新たに証明したこと，第2に，均斉成長における両階級の貯蓄率を時間選好率から導出し，これに関連付けてケンブリッジ方程式を特徴づけた点，第 3 に，そのうえで，利潤率の変化に伴う技術の切り替えにより，資本集約度が新古典派の想定と異なる方向に変化する場合があることを理論と数値計算によって厳密に示した点，以上をもって第 4 に，資本を本源的生産要素として投入する新古典派生産関数に替わる所得と富の分配を分析するモデルを構築する意義を提示した点にある。

本論文は，ケンブリッジ資本論争での争点を再考し，資本逆行といった新古典派経済学とは異なる含意の導出や，その現代的な意味づけを新しい形で行った研究として，進化経済学の発展，とりわけ生産と価値および分配の基礎理論の一つを提供する貢献をしたものと言える。これらの貢献は，新しい経済学の構築を目指す本学会会員の研究成果として高く評価できるのみならず，これにより多部門からなる経済の動学分析へのさらなる関心の高まりと波及を通じて，進化経済学の今後の発展も期待できる。

以上の理由で，会長ならびに理事会に，本年度の進化経済学学会賞の最終候補として推薦する。

Call for Papers "Microfoundation of evolutionary economics and its application"

Guest Editor: Kazuhiro Kurose (Tohoku University)

kazuhirokurose@tohoku.ac.jp

Associate Editor: Hiroshi Nishi (Hannan University)

nishi@hannan-u.ac.jp

Due date: February 28, 2023

Planned publication issue: The September 2023 Issue

Our society and economic system are huge and rapidly evolving with technological progress. Meanwhile, the system is organised by decentralised and minimally rational agents. The system sometimes faces severe economic fluctuations, but it mostly realises seemingly spontaneous stability in its evolutionary process. How can such stability with evolution in a huge and decentralised economic system be established? What is its plausible foundation working at a microeconomic level? How is that foundation associated with an aggregate economic and social phenomenon? Standard economics supposes the rational behaviour, preferences, technologies, markets, institutions, and organisations as given, and answers that this is because there exists a unique equilibrium that realises an efficient resource allocation under a certain set of assumptions.

However, in reality, most economic entities change or evolve. Therefore, as far as the perfect rationality of economic agents and equilibrium are placed at the core of the theory, it is difficult to correctly recognise and analyse the real economy where many entities change or evolve as it stands. Hence, an evolutionary point of view is the best way to understand the economy and its development, which Shiozawa, Y., Morioka, M., & Taniguchi, K. (2019) *Microfoundations of evolutionary economics*, Springer, put as the central dogma of evolutionary economics. Their book encourages us to build an independent approach with a solid and original microfoundation to truly consider the nature, causes, and effects of economic evolution. It also aims to creatively deconstruct the microfoundation of standard economics with an alternative approach.

In this vein, the *Evolutionary and Institutional Economics Review* (EIER) plans to launch a special issue on “Microfoundation of evolutionary economics and its application”. The special issue calls for papers on foundational, theoretical, applied, and empirical studies in evolutionary economics. Studies in management

science are warmly welcomed as firms and organisations are the warehouses of innovation and technological changes. Studies in the following fields are particularly encouraged but are not limited to these sample topics.

- Foundation of economics from an evolutionary perspective
- Management science in evolutionary economics
- Evolution and institution in economics
- History of thought for microfoundation and evolutionary economics
- Prices, demand, and structural dynamics from an evolutionary economics perspective
- Value, distribution, and production in evolutionary economics
- Applied evolutionary economics (e.g. input-output analysis, agent-based modelling, empirical analyses, computer simulation)
- Economic policy in evolutionary economics in the age of with/post-COVID-19.

Please follow the Instructions for Authors at www.springer.com/journal/40844 when preparing your manuscript. Please select “Yes” for the question “Does this manuscript belong to a special issue?” found at the bottom of the Additional Information tab and then select the special issue “Microfoundation of evolutionary economics and its application” during the submission process on https://www.editorialmanager.com/eier/default.aspx. Also please write "Microfoundation of evolutionary economics and its application" field during the submission process.

編集後記

2 月に入ってしまいましたが、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

第 27 回進化経済学会東京大会（立教大学）まで、あと一ヶ月ほどになりました。研究会や学会においても対面開催が増え、人や議論が作り出す学術的な雰囲気が満ち溢れた空間のなかでたくさんの刺激を受ける機会があることの大事さを再認識しています。東京大会では、話す人と聞く人が互いに顔を合わせ、参加する人たちが知的好奇心を促される、そんな雰囲気を味わえることを楽しみにしています。